●論壇

# ユーモアの欠如

斎　藤　茂　太*

## Humor Behind the Wheel

Shigeta SAITO*

かつて、私の身近に、車の運転を業とする者がいた。

初めて、彼の運転する車に乗った時、何か私は異質なものを感じた。異質というのはあまりピッタリした感じではない。まあ、円滑でないという感じだったかも知れぬ。車の進行がスムーズでないのだ。もっとはっきり言えば、車のスピードがたえず変わるのだ。交通量の多い、信号がつぎつぎに来る道路なら当然だろうが、高速道路ですらそうなのだ。しかも周期が極めて短く、リズミカルに速度が変わるといっていい状態なのだ。私はある日、ふと彼の足もとをみて驚いた。驚いたと同時にその理由がはっきりと判った。彼の足もとがリズムをもって上下運動をしているのである。つまり、アクセルを踏んだり、ゆるめたりしているのである。これではスピードが早くなったり、遅くなったりするのは当然のことである。

そのとき、私の心にある結論が浮んだが、その結論が完成するのはもう少しあとのことである。

駐車場で、先に出る出ないで、よその車の運転手と口論をした。それを裁こうとした駐車場の係員と言い争った。ふだんは無口で、ゲーテや、モーパッサンの作品をよく読んでいたし、スペイン語を熱心に勉強していた。いささか、ぎごちないが、言葉もまあまあだった。ところが、ひとたび、「ある状況」が襲ってくると、そういう「上衣」がすべてはぎとられて、赤裸々な「彼自身」がむき出しになった。

もう一つ気がついたことは、彼が決して他人に謝まらないことだった。自らの「非」をみとめることを決してしないのだった。謝まらないだけならまだいい。彼は必ず他人の「非」を攻撃した。そうして「あらし」がおさまると、静かな「ゲーテ」と「モーパッサン」にもどった。

そして彼の人となりへの結論。粘着性性格プラス自己顕示性性格の持ち主。

もう少し具体的にいえば、粘着性は、物事にこり易く、四角四面で融通がきかず、ジョークを解さず、よく不気嫌になり、比較的ガマン強いがある限度を越すと大爆発をする。固く、きゅうくつで、馬鹿正直といったもので代表され、自己顕示性は、人をうらやみ、ねたみ易く、口惜しがりやで、自分の行動をすべてよしとし、他人はすべて「悪」とする。他人からの批判に猛然と反発する。ものの考えかたが自己を中心とし、すべての責を他人に転ずる。そういった要素が中心となる。要するに、他人との協調性がなく、他人にゆずることを好まない、という性格だ。そして、ゆとりのない心に欲求不満から来る動揺があった。遂に破局が来た。母、私共夫婦、子供たちを乗せた車が、横から出て来た車に側面衝突され、悪くすると一家全滅ということになりかねない事故を起こした。横も縦も同じ道幅の道路だったが、いつ横から車が出てくるか判らないという予想を持たない運転ぶりで、全く減速をしていなかった。つまり完全に自己を中心とする運転ぶりだった。

その直後、彼は私の前から姿を消したが、運転のみならず、近頃の日本にはこういう「傾向」が横行している。一見強そうにみえるが結局は自らの破滅に通じる。

いきなり観念連合が飛躍するようだが、この対策は、我々の心にユーモアを蔓延させることしかない。日教組大会の発言にユーモアがあり、ユーモア教育をカリキュラムの中に大きくうたいあげれば私は日教組を信頼してもよい。心のゆとりはユーモアの中に生れるからだ。

*斎藤病院院長（精神神経科）　Director, Saito Hospital